

第69回在宅ケアネット渋川 講演会レポート

【日時】 6月12日(金) 19:00~20:15 【会場】 渋川市古巻公民館

【演題】 褥瘡の最新情報：外科的治療

～適応・手術の実際と術前後マネジメントの重要性にも焦点をあてて～

【講師】 群馬大学医学部附属病院 形成外科

診療教授 牧口 貴哉 先生



職 種	計
医師、歯科医師、薬剤師	17
看護職(保健師・看護師)	27
PT/OT/ST	6
管理栄養士・栄養士	2
介護支援専門員	12
介護職	9
事務(行政含む)	3
その他	2
合計人数	78

今回は、褥瘡をテーマに、形成外科医の牧口先生よりご講演いただきました。褥瘡に対する外科的治療については、日頃あまり耳にする機会がなく、専門的な内容も含まれていましたが、実際の症例写真を多く用いながら分かりやすくご説明いただきました。

講演では、大きな褥瘡が改善することで、医療従事者や家族の負担軽減につながるだけでなく、転院や在宅療養など療養先の選択肢が広がり、今後の生活を検討しやすくなることが紹介されました。また、悪臭や浸出液の減少によって患者さんの活動性が向上し、QOL（生活の質）や尊厳の向上にもつながるとのお話がありました。

一方で、術後の再発率は10～60%と幅があるものの、適切な術後ケアを継続することで再発リスクを低減できるとのことでした。褥瘡ケアにおいては、医療・介護関係者がそれぞれの専門性を生かしながら役割を果たす「分担医療」が重要であることも言及されておりました。

今回の講演を通じて、外科的治療の重要性を学ぶとともに、褥瘡の予防や再発防止のための日々のケアの大切さを改めて実感しました。また、「見た目が悪いと機能面も悪くなる。整容面と機能面はリンクしている」という先生のお話が印象的でした。人間の身体は機能と形態が密接に関係しており、その両方を整えることが患者さんの生活の質の向上につながることを学ぶ機会となりました。

【参加者の感想（一部抜粋）】

☆非常に有意義でした。手術の可能な部分、術後の再発率を知れて、術後の対応を考えなければならないことを再認識しました。

☆術後再発率の高さに驚かされた。外力（特にずれ力）を除去しないと再発してくるかと思いました。

☆手技と術前の取り組みの management の大切さがわかった。

☆褥瘡が出来ないようにすることが重要であるが、食事が摂れなかったり、動けない方が褥瘡が出来てしまうので、日頃の生活環境が大切になってくると思う。在宅では観察力も重要で、早期に気付くことが大切だと思いました。

☆褥瘡について ope だけでなく、術前後の管理が大切であることが分かった。普段みることのない形成外科について知ることができて良かった。

☆褥瘡に対して手術的治療があることを考えたことがなかったので、今回の講演で学べたことはとても多かった。そもそも形成外科がどのようなものなのかがよく分かっていなかったもので、そこから講演で最初に教えていただいたおかげで、その後の褥瘡の手術的治療の意義なども理解しやすかった。

☆はじめて聞いた内容だったので、興味深かったです。褥瘡に関しては何より普段の観察が重要なのだと思いました。